

## Ⅱ. 2022年度活動報告

### 1 意識改革

#### (1) 山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー

【報告会】 令和4年6月22日（水）15：00～16：30  
第7回山形大学男女共同参画アンケート結果、取組報告

【講演会】 令和4年6月23日（木）14：30～16：30  
講師：山形県男女共同参画センター館長 伊藤眞知子氏  
地方だからこそ、ダイバーシティ ～男女共同参画週間に寄せて～

【研修会】 令和4年6月28日（火）15：00～16：30  
講師：山形大学学術研究院准教授 中澤未美子氏  
「多様な性に関するガイドライン」について ～あなたにも関係すること～

毎年6月23日から29日までの一週間は「男女共同参画週間」とされているが、本学では、この「男女共同参画週間」の趣旨に賛同し、「山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー」を開催した。

今年のセミナーは、「報告会」「講演会」「研修会」と3回に分けて開催。

中でも6月23日に開催された「講演会」については、山形県男女共同参画センター館長であり、本学の経営協議会学外委員でもある伊藤眞知子氏をお招きし、『地方だからこそ、ダイバーシティ～男女共同参画週間に寄せて～』と題して、対象者を本学教職員のみならず、学生や一般の方を含め、多く



講演会の様子



チラシ

の方に参加いただけるものとした。

約60人が参加した講演会は、伊藤館長の柔らかな口調と、わかりやすく新たな気づきのある内容で、最後に行われた質疑応答には多くの質問が寄せられ、時間の関係上、全ての質問には答えきれない程となった。

受講者からは、「男女共同参画、ダイバーシティについて多面的に学べた」「学外参加者も多く、多方面にわたる質問が出て、質疑応答がとくに有意義だった」「頭の中で考えていたこと、無意識に発していた言葉など、改めなければならないことを理解した」「身近にある問題を取り上げた興味深いお話でした」などの声が寄せられ、講演会は大変有意義なものとなった。

引き続き、本学では、「男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、本学の学生及び教職員が性別、性的指向・性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現することを目指していく。

## (2) 学長・学部長と女性研究者との懇談会

山形大学では、女性研究者にとって、働きやすく研究しやすい環境づくりを行うため、学長や学部長と女性研究者が意見交換を行う「学長・学部長と女性研究者との懇談会」を開催した。令和4年度の懇談会実施状況は次のとおりである。

飯田キャンパス	日 時	10月24日 (月) 15:00~16:00	参加数	20人 (うち、女性研究者10人)
	テーマ	ワークライフバランスの実現 ～女性が働きやすい環境に向けて～		
	効果・ 反省事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職位や年齢、所属の異なる研究者や職員が参加してくれたことから様々な視点で意見交換ができた。</li> <li>・男女共同参画基本計画について、改めて参加者に考えていただけたきっかけとなった。</li> <li>・参加者より、時間が足りず意見を述べるだけで具体的な議論が少なかったとご意見をいただいたため、次回以降開催する際は所要時間や人数制限等考慮する必要がある。</li> </ul>		
小白川 キャンパス	日 時	10月26日 (水) 15:50~16:30	参加数	10人 (うち、女性研究者8人)
	テーマ	女性研究者の職場環境改善		
	効果・ 反省事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者と学長等が直接対話できる貴重な機会となったが、第1部が延長した影響もあり、時間が足りなかった。</li> <li>・日常的な業務に関するものから大学の制度に関するものまで幅広い意見が出たため、非常に有意義であったと思われる。</li> <li>・小白川キャンパス全体への周知であったにもかかわらず、参加者が特定学部に限った原因が分からない。開催場所や進行役が理学部だったからなのか。もしそうだとすれば、次回以降は進行役の名前・学部などは開催通知には書かず、学部色を可能な限り消すなどの工夫が必要である。</li> </ul>		

鶴岡 キャンパス	日 時	12月20日 (火) 14:00~14:45	参加数	7人 (うち、女性研究者3人)
	テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性研究者の立場から、具体的に取り組んでほしいと思う施策</li> <li>・女性研究者のすそ野拡大に関する取り組みと課題、要望・アイデア</li> <li>・ウィズコロナにおける仕事と子育て・介護の両立（リモートワーク等）の課題や要望</li> <li>・女性教員の上級職（教授会、委員長等）登用に関する取り組みと課題、要望・アイデア</li> </ul>		
	効果・ 反省事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面開催で直接の懇談の場を設けることで、女性研究者が日々感じていることをより細かく話し合うことができた。</li> <li>・今回は採用後1年以内の女性研究者の参加が多かったため、山形大学の外からの視点での意見や改善点を得ることができた。</li> <li>・反省点としては、具体的な制度等についての話し合いに踏み込むことができなかつたため、次回はテーマの設定を工夫するなど、制度の改善点の洗い出しなどにつながるようにしたい。</li> </ul>		
米沢 キャンパス	日 時	1月31日 (火) 15:40~17:00	参加数	15人 (うち、女性研究者4人)
	テーマ	特になし		
	効果・ 反省事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会で発言のあった意見・要望は、参加者自身の経験や女性研究者からの目線に基づいた大変貴重なものであった。</li> <li>・参加者からの発言にもあったように、今後の懇談会については、女性に限定せず、対象やテーマをもっと柔軟に設定してもよい。</li> </ul>		



懇談会の様子（飯田キャンパス）



懇談会の様子（小白川キャンパス）



懇談会の様子（鶴岡キャンパス）

### (3) 新任職員ミーティング～新任者と語るワークライフバランス～

1. 日時 【事務職員】 令和4年8月1日（月） 14：30～15：30  
【教員】 同日 16：00～17：00
2. 場所 法人本部第1会議室（対面）及びオンライン（Zoom）
3. 参加者 【事務職員】 10名  
【教員】 16名

令和3年度中途採用及び令和4年4月1日以降採用の教職員を対象に、本学に新しく採用となった職員が、ワークライフバランスを保持し、生活を安定させるための情報交換を目的としたミーティングを開催した。

事務職員・教員それぞれが、最近不安に思うことや悩んでいることを互いに語り合えるよう二部構成とし、また、コロナ禍の感染対策として、小白川キャンパスの教職員は会議室の対面で、その他のキャンパスの教職員はオンラインでの参加となった。

前半の事務職員ミーティングでは、ダイバーシティ推進室長の大森副学長から挨拶の後、総務部長、労務課長及び同担当係長、ダイバーシティ推進室の柿崎副室長から、事前アンケートに寄せられた参加者からの意見や要望への説明及び意見交換があった。

ミーティングでは、普段なかなか聞くことができない同期の新任職員が抱えている悩みを共有するとともに、出席者の先輩職員からも、ワークライフバランスについて様々なアドバイスがあった。

後半の教員ミーティングでは、ダイバーシティ推進室の河野副室長も出席し、学生指導

や授業運営等の悩みに対し、室長および副室長から、これまでの教員生活に基づく現場の経験を踏まえた貴重なお話を伺うことができた。

事後アンケートでは、「なかなか会えない同期の職員と顔を合わせ、抱えている悩みを共有することができた」、「色々な背景の方から、ざっくばらんな話が聞けた」「知りたい情報が得られた」等、有意義な会であったとの意見があった反面、「参加人数が多いため、全体で一つの話題を話すのは難しく、自己紹介以外の発言がなかった人もいた」「1時間の都合上、自分の聞きたいことや知りたいことについては質問することができなかった」「ミーティング時間が短く、活発な話し合いができなかった」との声もあった。特に教員については、参加者が昨年の2倍以上と想像を上回る人数となったことで、自己紹介に時間を要し、参加者同士の情報交換の時間が少なくなってしまった。

また、今回の対面とオンラインの併用開催では、オンライン参加者が会話に入りにくい等の問題点が浮き彫りとなり、前述のミーティング時間と併せて今後の開催方法の見直しの検討が必要と思われた。



ミーティングの様子

## (4) 山形大学附属学校園教職員合同研修会

10月3日（月）、附属学校園では、附属学校園の教員が本学の男女共同参画とダイバーシティについての認識を深め、教育実践に対する具体的なイメージと実践意欲を高めることを目的に研修を開催。附属学校園の全教員（90人）が参加した。

研修は、県内の高等学校で校長を歴任され現在は山形大学ダイバーシティ推進室准教授の柿崎悦子先生を講師にお迎えし、昨年度と同様、コロナ禍の中での開催でもあり、各学校園の教室等（20カ所）をネットワークで繋ぎ、講師はその中の1カ所をメイン会場としてZoomを利用して実施された。

今回の研修は「本学の男女共同参画及びダイバーシティについて」をテーマに3部構成で行われ、第1部では「男女共同参画とダイバーシティ 学校の日常での気づきとジェンダー平等の実践」と題して柿崎准教授の講演が行われ、第2部ではグループごとにワークショップ、第3部では研修全体のまとめという内容で実施。今回は、研修に先立ち、附属学校園の全教員に対して「無意識のバイアスチェック」アンケートを実施し、その結果も踏まえながら行われた。

特にグループワークで行われた第2部のワークショップでは「気づきと実践への第一歩」をテーマとして、ジェンダーカードも活用しながら各学校園の教育活動の場面でのジェンダーの例を出し合い活発な情報交換、教育活動の場面を想定し指導案を考えてみるなどの「実践」に結びつくような意見交換も行われた。



今回参加した教員らからは「グループ分け等の際に無意識のうちに男女別に分けてしまっていた。」「社会の変化に伴って児童生徒の意識も変わってきているようだ。」など係活動、グループ・班分けの際に男女のバランスを意識してしまっていることや「男だから〇〇、女だから□□」などの先入観、偏見、イメージを持っていたなどの現場での多くの気づきが出され、活発な意見交換が行われ各教員のジェンダーやアンコンシャス・バイアスへの意識・関心の高さが伺えるものとなった。

この研修で、社会構造の変化、デジタル社会、多様性、地域間格差などの子どもたちを取り巻

く環境のなかで、先生たち自身の「無意識の思い込み」に気づき、未来の社会で活躍する子どもたちについて、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するこれからの教育について考える大きな機会ともなったようだ。



山形大学では、2020年7月の「YU empowering with SDGs」宣言以来、社会の持続可能な発展に向けた地域の取組を積極的にempower!するとともに学内すべての活動をSDGsの枠組みによりempower!するという取組を行っている。

今回の研修において、目標5や10などにつながるものとなり、附属学校園においては、引き続き、前向きに取り組んでいきたいと思っている。



## (5) 女性研究者の集い

男女共同参画に係る第7回（令和3年度実施）アンケート結果では「職場に何でも話せる人がいない」と感じる女性教員は57.9%と、他の職種別、性別に比べ最も高く、前回調査の41.1%よりも上昇していた。

これは、新型コロナウイルス感染症拡大による、人とのかかわりあいの減少にも起因することも考えられるが、前回のアンケート結果はウイルス出現以前の実態であったため、この状況の解決策を検討し、令和3年度の新たな試みとして、女性の教員が気軽に話せる場とした「女性研究者の集い」を試行した。

引き続き今年度も毎月第3木曜日を原則として、対面及びオンライン形式で開催することとした。

### 【令和4年度開催実績】

- ・ 令和4年5月19日（木） 16：45～17：00
- ・ 令和4年6月16日（木） 16：45～17：00
- ・ 令和4年7月21日（木） 16：45～17：00
- ・ 令和4年10月20日（木） 16：45～17：00
- ・ 令和4年11月17日（木） 16：45～17：00
- ・ 令和4年12月15日（木） 16：45～17：00
- ・ 令和5年2月16日（木） 16：45～17：00

**女性研究者の皆さまへ**

～令和4年度 第6回女性研究者の集いの場のご案内～

ダイバーシティ推進室では、女性の教員が月に1度集まって、おしゃべりしながら、ホッとできる場所を企画しました。さまざまな分野のさまざまな年代の方々が交流し、ゆるいつながりを築いていきたいと思います。

男女共同参画に係る第7回（令和3年度実施）アンケート結果では、「職場に何でも話せる人がいない」と感じる女性教員は、57.9%と他の職種別、性別に比べ、最も高く、前回調査41.1%よりも上昇していました。

**開催日時** 12月15日（毎月第3木曜日）  
16時15分～17時00分

---

**申込方法**

▶ 申込フォーム  
<https://forms.office.com/r/rbE7rZGDLc>  
※オンライン参加の方には前日までにURLをお送りします。

ご参加お待ちしております！

ダイバーシティ推進室  
TEL023-628-4937・4939（平日9時～17時00分）  
e-mail:yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

チラシ

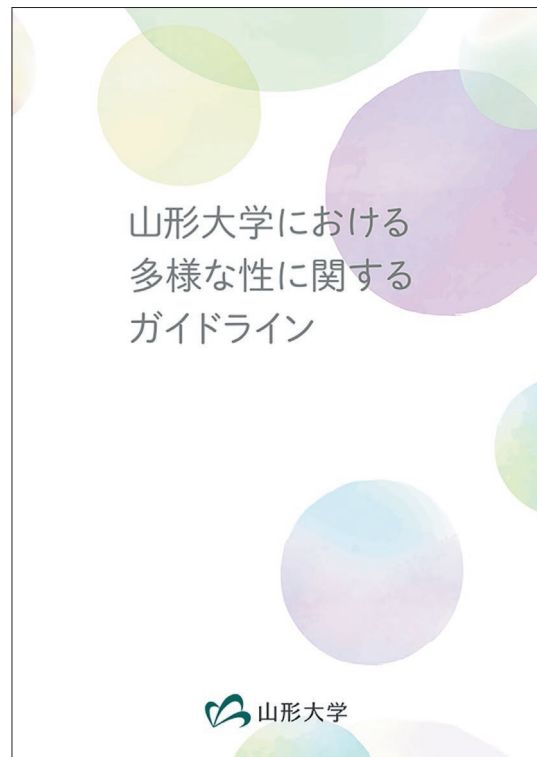
## (6) 多様な性に関するガイドライン

山形大学では、第2次山形大学男女共同参画基本計画（令和2年4月施行）において、男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、「個々の性別、性的指向・性自認等にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れることができる組織を目指す」ことを掲げており、様々な取組を行っている。

その取組の一つとして、令和3年2月には「多様な性に関するガイドライン」を作成し「多様な性」について、本学の姿勢、現段階での具体的な対応、これから対応する必要がある事柄などを示した。

また、本学の各キャンパスには「多様な性に関する学内の相談窓口」が設置されており、多様な性が尊重されていないと感じる場面や深く悩んでしまうような出来事が起こった場合など、相談を随時受け付けている。

なお、令和4年度は、本学へ新たに入学した学生に対し、当該ガイドライン（リーフレット）を配布した。



ガイドライン（パンフレット）

## ② 仕事と育児等との両立支援

### (1) 各種保育利用料補助制度

#### 1. 制度の目的

山形大学に所属する女性研究者に対し、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用料金及び大学入学試験等の業務のための一時預かりの利用料金を補助し、仕事と育児の両立を支援することを目的とする。

#### 2. 支援の対象者

支援の対象となるのは、本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教員及び医員（年俸制の者に限る。）で、小学校6年生までの子どもを養育する女性研究者とする。

#### 3. 補助額

補助される額は、子ども一人につき年間二万円を限度とする。

ただし、下記4⑤の場合は、年間二万円の限度に含まれない。

#### 4. 支援の対象となる保育

支援の対象となるのは、次に掲げる事業者（ファミリーサポートセンター等）による保育で、親族・知人によるものは除く。ただし、事業者への保育依頼が困難である場合には、ベビーシッターに保育を依頼することができるものとする。

- ① 夜間保育（延長保育を含む）
- ② 休日保育（ただし、通常保育及び延長保育を除く）
- ③ 病児・病後児保育
- ④ 学童保育
- ⑤ 大学入学試験（大学入学共通テスト・個別学力テスト・推薦入試など）の業務のために利用する一時預かり

#### 5. 利用者状況

今年度の登録者数は、研究者22名、子ども33名であった。

なお、研究者には、追加募集の男性研究者を含む。



## (2) 研究支援員制度

### 1. 制度の目的

山形大学（以下「本学」という。）に勤務する研究者が、ワークライフバランスを保ちながら研究活動を行う環境作りの一環として、研究支援員（以下「支援員」という。）を配置し、出産、育児、介護等により十分な研究活動を行うことができない研究者を支援することを目的とする。

### 2. 支援の対象者

支援の対象となるのは、本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員及び博士研究員並びに大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生のうち、次に掲げるいずれかの要件で研究活動に支障が生じている研究者とし、ダイバーシティ推進室長が認めた者とする。

ただし、博士研究員及び大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生が支援を必要とする場合は、博士研究員及び学生の指導を担当する教員が支援員の申請及び管理等を行うものとする。（指導を担当する教員は、本学の常勤の職員とする。）

- ① 妊娠中又は小学6年生までの子供を養育している者
- ② 市町村から要介護の認定を受けている親族（同居別居は問わない。）を介護している者
- ③ その他、上記①及び②に準ずる者

### 3. 支援する内容

- ① 支援員に依頼できる業務は、当該研究者があらかじめ申請し、審査の上、ダイバーシティ推進室長が決定したものとする。あくまでも研究上において真に必要な補助業務に限る。
- ② 支援員によって支援できる時間は、支援業務の内容、関連予算等を勘案し、週6時間までの範囲でダイバーシティ推進室長が決定する。（申請時間が全て認められるとは限らない。）

### 4. 支援する期間と経費負担

- ① 支援員による支援期間は、1年間（4月1日から翌年3月31日）とする。ただし、当該期間中に支援対象者としての資格要件を失った場合は、直ちに支援を終了する。
- ② 支援員の雇用に要する経費は、ダイバーシティ推進室が負担するものとし、採用に当たっては、「国立大学法人山形大学短時間勤務職員就業規則」又は「国立大学法人山形大学アドミニストレーティブ・アシスタントに関する規程」に定める規則を適用する。
- ③ 支援員に係る雇用経費は、学長裁量経費から支出する。

### 5. 利用者状況

今年度の利用者数は21名であった。

### (3) 学会等参加時の保育・介護支援制度

#### 1. 制度の目的

山形大学（以下「本学」という。）に勤務する教職員等の仕事と育児・介護の両立を支援するため、学会等参加時の託児、ベビーシッター、介護支援施設、ホームヘルパー等の利用料金の一部を補助することを目的とする。

#### 2. 支援の対象者

補助の対象となるのは、本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員（教員）及び博士研究員並びに大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生で国内外の学会（付随する会議を含む）等へ参加するために託児、ベビーシッター、介護支援施設、ホームヘルパー等を利用する者のうち、次に掲げるいずれかの要件を満たす者とする。

- (1) 小学校6年生以下の子どもを養育している者
- (2) 要介護認定1以上の家族を介護している者

なお、研究員については、週30時間以上勤務の者に限る。

#### 3. 利用者状況 今年度の利用者数は1名であった。

### (4) 女性管理職支援制度

#### 1. 制度の目的

女性管理職の仕事と育児の両立の支援を目的とする。

#### 2. 支援の対象者

国立大学法人山形大学管理職手当支給細則第2条第1項に規定する区分1種から7種までの女性職員で、小学6年生までの子を養育する者。

#### 3. 支援の対象となる保育

管理職等の職務の遂行に伴い必要となった保育サービス等で、主に次に掲げるもの。

- ①夜間保育（延長保育を含む）
- ②休日保育（ただし、通常保育及び延長保育を除く）
- ③病児・病後児保育
- ④夜間会議時のベビーシッター利用
- ⑤学童保育（延長保育のみ）
- ⑥習い事に係る送迎
- ⑦その他上記に類する保育サービス

#### 4. 利用者状況 今年度の利用者数は1名であった。

## (5) 女性研究者へのノートパソコン貸出し

### 1. 制度の目的

山形大学では、平成23年度から山形大学男女共同参画基本計画（平成22年6月策定）に基づき、教育・研究と生活との両立のための環境整備の一環として本学の女性研究者に対して、ノートパソコンの貸し出しを行うことを目的とする。

### 2. 支援の対象者

本学の女性の常勤研究者（教員・医員）及び本学に所属する研究者（博士後期課程学生・ポストドクター）で以下に該当する者とする。

- ①妊娠中、又は小学6年生までの子育て中の者
- ②市町村から要介護の認定を受けている親族（同居別居は問わない）を介護している者
- ③勤務地の都合により、2世帯以上の生計を営んでいる者
- ④その他、上記理由に準ずる者

### 3. 利用者状況

今年度の利用者数は8名であった。

## (6) 保育所利用状況（入所者数）

### 小白川キャンパス保育所のびのび

（ ）は地域枠利用者数 令和5年2月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和5年2月	5人（1人）	13人（1人）	18人（2人）

### 小白川キャンパス保育所つぼみ

（ ）は地域枠利用者数 令和5年2月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和5年2月	7人（1人）	3人（0人）	10人（1人）

### 医学部保育所すくすく

（ ）は一時保育利用者数 令和5年2月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和5年2月	18人（1人）	19人	37人（1人）

### 医学部病児保育室

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児以上	計
令和4年度（4月～1月）	23人	45人	31人	40人	139人

### 荘内銀行キッズワールドあゆみ

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和5年2月	0人	0人	0人

## ③ 女性研究者の裾野拡大

### (1) 女性研究者裾野拡大セミナー

#### 農学部

「農学部ってどんなところ？～現役理系学生の話聞いてみよう！～」

◆日時：令和4年8月4日（木）

◆会場：農学部

◆参加人数：事前に参加申し込みをした女子高校生

申込人数19人（男性4人・女性15人）※当日参加者11人

◆内容：

本学部の女子学生によるウェビナー講演および質疑応答

以下の内容について、用意したスライドで説明しながら、Q&A機能で送られた質問に応じて追加で説明や紹介を行った。

- ・農学部における学生生活（鶴岡での生活、サークル活動、アルバイトなど）
- ・農学部で受講できる授業および実験実習の内容
- ・研究室と研究内容について
- ・大学卒業後の進路

◆効果：

- ・女子高校生対象のセミナーだが、男子高校生の申し込みも受け付けた結果、ある程度の人数から申し込みがあった。
- ・現役の大学生による講演は、高校生にとってわかりやすく身近に感じる内容になったと思われる。

◆反省点：

- ・受講者がカメラをオフにしていたため、受講者の雰囲気かわからず、講演者にとっては話しにくい環境だった。
- ・昨年はオープンキャンパスと同時開催で70名以上に参加してもらえたが、今年はオープンキャンパスとは別日の平日に開催したところ、当日参加者は11名だった。
- ・参加人数が少なかったためか、質問が少なく、残念であった。

## 理学部

高校1年生向け 「理学部で何ができるのか？～女子高校生のための山大理学部案内～」

高校2年生向け 「理学部の研究室を覗いてみよう！」

◆日時：令和4年11月29日（火）

◆会場：理学部1号館12・13講義室 等

◆参加人数：山形県立山形西高等学校 生徒134人（1年生59人、2年生75人）

◆内容：

山形大学理学部での研究・教育について、将来女性研究者となる可能性のある女子高校生に理解してもらうことを目指す。具体的な目的は以下のとおりである。

- ・理学部の研究・教育内容を具体的に紹介し、より明確な理解を得る。
- ・在籍する女子学生、女性研究者の生の声を聞き、対話する機会を設けることで、将来の女性研究者増につなげる。
- ・研究室を見学する機会を設け、将来の選択肢の1つとしてもらう。

（高校1年生向け）「理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内」

理学部の5分野1領域から学生が参加し、研究・生活について理学部紹介を行った。

（高校2年生向け）「理学部の研究室を覗いてみよう！」

各分野・領域で希望生徒を受入れ、分野案内、実験・模擬授業等を行った。

◆効果・反省点

（高校1年生向け）

理学部各分野・領域（数学、物理学、化学、生物学、地球科学、データサイエンス領域）の学生が教育・研究・学生生活の紹介を行った。発表後、質疑応答を通して理学部の学生の生の声を聞いてもらった。

高校生が抱く「理学部ではどのような教育・研究が行われているの？」「進路選択の時期や決め手は？」「研究分野について興味を持ったきっかけは？」といった一般的な疑問について分かりやすく説明。研究分野以外にも学生生活についての質問などが寄せられた。

（高校2年生向け）

- ・数学分野：「行列」について学ぼう
- ・物理学分野：宇宙の謎に迫る
- ・化学分野：化学反応を利用して『光る物質』を観察してみよう！
- ・生物学分野：光合成生物が光を集める仕組みを学ぼう
- ・地球科学分野：地球にさわろう！：室内実験とサンプル観察によるアプローチ
- ・データサイエンス領域：「決定木」によるデータ分析

という内容で、各研究室が工夫を凝らした実験・講義を行った。参加者は、興味を持った分野、領域の実験室等を訪問し、これらの実験・講義を体験した。

## (2) ダイバーシティシンポジウム

### 「山形からはばたく女性科学者～パイオニアから現代、そして未来へ～」

令和4年12月26日（月）に開催されたダイバーシティシンポジウムは、次世代のキャリアパスの意識の向上を図ると同時に、性別に関係なく理工系分野で活躍する若年層を支援する社会全体の意識を醸成し、女性研究者の裾野拡大にもつなげることを目的として開催された。併せて山形県出身で本学地域教育文化学部の前身女子師範学校の卒業生である女性科学者、加藤セチ博士を顕彰するシンポジウムでもあった。

シンポジウムの第一部は、山形新聞の特集記事「やまがた再発見」において、加藤セチの生涯と功績を3週にわたり執筆された宮野氏による『加藤セチの生涯と功績』と題した基調講演。

第二部は、山形県立西高等学校生徒、本学大学院生（農学研究科）、小学校教諭（本学大学院教育学研究科修了）、本学教員（理学部主担当准教授）の様々な世代のパネリストによるパネルディスカッションが行われた。

対面及びオンラインにより開催されたシンポジウムには、合わせて約120名が参加。

シンポジウム参加者からは、「加藤セチ先生や講演いただいた方々のお話は、共感する部分・尊敬する部分・参考になる部分がたくさんありました。女性研究者のパイオニアである加藤先生の生涯をまとめた講演や、今現在、研究を行っている女性の生の声は、普段の生活では触れることができないため、とても貴重な体験でした。」など、大変有意義なシンポジウムであったとの声が多く寄せられた。



基調講演の様子



チラシ（表）



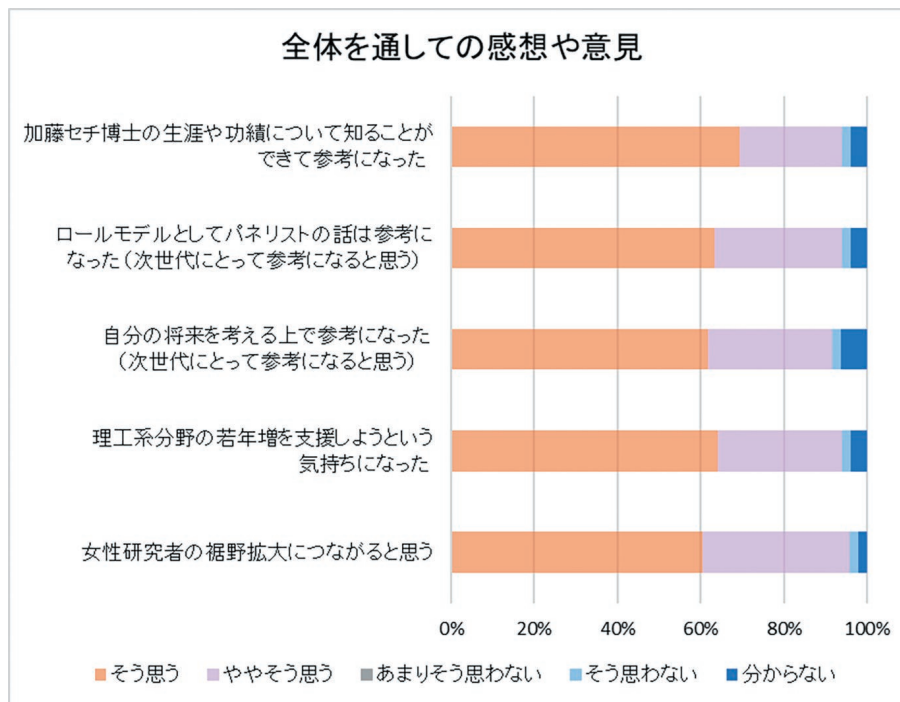
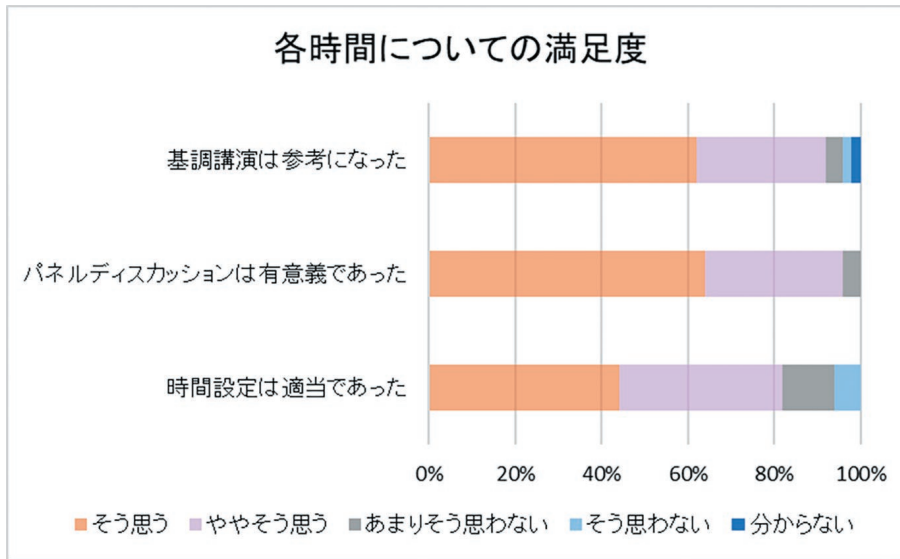
パネルディスカッションの様子



チラシ（裏）

アンケート

回答数50（回答率 41.7%、参加者120人）

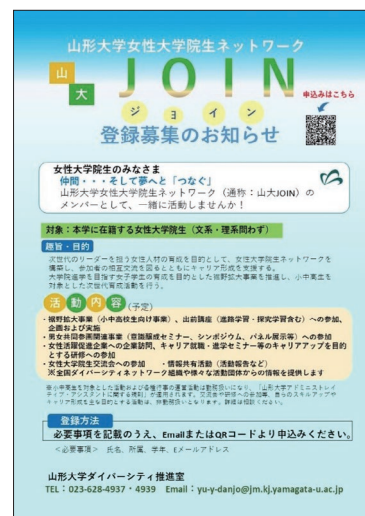


### (3) 山形大学女性大学院生ネットワーク(略称 山大JOIN)

次世代育成・裾野拡大事業として、女性研究者をめざす女性大学院生のネットワークを平成30年度に設立した。5年目となる今年度も新規メンバーの募集を行い、登録者数は16名となった。昨年度来の課題であったメンバーの交流会は、今年度3回開催し、研究活動や将来のことなどについて情報交換できた。また、次年度の活動についても様々な意見交換ができ有意義な時間となった。

高校への出前講座は1校のみ(7月25日開催米沢興譲館高校)となったが、参加した高校生のアンケート調査では、大学院生との交流の中で刺激を受け、将来の進路選択に資する時間となったとの回答が多かった。また、高校における探究型学習の助言も定期的に行った。

その他にも、天童市立第三中学校でのサイエンスカフェ(5月18日開催)や山形県男女共同参画センター主催のチェリアフェスティバルにおけるサイエンスカフェ(10月1日開催)でも女子中高生やその保護者と交流した。



### (4) 女子中高生理系進路選択支援事業

令和2年度に採択された、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の山形大学企画「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」は令和3年度末で終了した。その継承事業は、山形大学地域共創STEAM教育推進センターとも連携しながら実施している。理工系進路選択に関心の薄い中学生・高校生を対象に、理工系の科目や仕事への関心を高めるため、女性研究者・女性大学院生が実験を行う出前講座や進路講話、サイエンスカフェを開催した。

#### 【中学校での出前講座】

開催日 令和4年5月18日(水)

会場 天童市立第三中学校

対象 2学年120名

講師 栗山恭直教授(理学部)、河合寿子准教授(理学部)、野村真未助教(理学部)

実験補助：山大JOIN、理学部学部生

実験テーマ 栗山「オワンクラゲの光る仕組み」

野村・河合「光合成生物が光を利用する仕組みを学ぼう！」

パネルディスカッション パネラー：女性研究者 2名、女性大学院生 2名、女性学部生 2名

進行：福田 雅アナウンサー(エフエム山形)



天童市総務部市長公室まちづくり推進係と山形大学は、出前講座を天童第三中学校で開催した。中学生からは、「オワンクラゲが発光するところが面白い」「生物が光るところを見ることができて面白かった」という感想があった。また、実験後のパネルディスカッションでは、女性研究者から、最近は女性研究者が働きやすいように様々なサポートがあるということも話題になった。様々なことに興味を持ちながら知的好奇心を高め、そのエネルギーを継続させてほしいとの助言があった。さらに、中学生からは、難病などの病気に対して、科学者はどのようなアプローチをしているのかなどの質問もあった。



実験の様子



パネルディスカッション

#### 【高校での出前講座】

開催日 令和4年7月25日（月）

会場 山形県立米沢興譲館高等学校

対象 1・2学年149名

講演 講師：高橋茶子助教（工学部） テーマ：『AIの進化を支える「機械学習」』

座談会 矢野裕子助教（工学部）、山大JOIN 6名

講演については、「様々な進路の選択の仕方があるのだと分かった」「進路の考え方、大学の選択を知ることができた」や、「理系の方の話を聞いてイメージが沸いた」などの感想があった。また、「女子大学院生の方々から、現実的なお話を聞くことができて大変有意義だった」などの感想も寄せられた。



講演



座談会

【サイエンス・カフェ】

開催日 令和4年8月21日（日）

対象 女子中高生

会場 天童市天童市天童中部公民館

講師 講師：河合寿子准教授（理学部）、野村真未助教（理学部）

実験補助：山大JOIN、理学部学部生

実験テーマ 「はたらくたんぱく質」～目に見えないハサミでたんぱく質を切ってみよう～

天童市男女共同参画社会推進委員会の依頼を受け、天童市天童中部公民館で開催。参加者からは、「身近な不思議を解決できた」「今回の体験を思い出して、食品表示を見てみようと思った」「今回の体験を通じて理科に関わる仕事を将来の夢のひとつに入れていきたいと思った」などの感想が寄せられた。



実験の様子



実験の様子

【チェリアフェスティバル サイエンス・カフェ】

開催日 令和4年10月1日（土）

会場 遊学館

対象 26名（小学生、中学生、高校生、保護者）

講師 講師：栗山恭直教授（理学部）、野村真未助教（理学部）、河合寿子准教授（理学部）、  
宮城敦子准教授（農学部）

実験補助：山大JOIN

実験テーマ 「水中で光合成を行う戦略 –走光性を観察してみよう–」

座談会 「先生や大学生に質問してみよう」

楽しく実験ができたという感想が多く寄せられた。また、理系の進路選択について、ロールモデルとして女性研究者から話をきくことで、より具体的になったとの声もあった。



実験の様子

【課題研究への助言】

開催日 令和4年7月から高校の計画に沿って助言

実施校 山形県立東桜学館高等学校

助言者 山大JOIN 4名

**(5) 令和4年度基盤共通教育・ジェンダー関連授業****令和4年度基盤共通教育「キャリア形成とワークライフバランス」(山形から考える)****1 テーマ**

- (1) 自らのキャリア・ビジョンを描くため、多方面で活躍する方々の経験に基づいた講義を通じて、男女が共に仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を保てる働き方についての考えを深める。
- (2) 21世紀日本の最重要課題となっている「男女共同参画社会」とはどのような社会で、どのような課題をどのように解決するのか具体的に考える。

**2 講師一覧 (敬称略)**

授業時間 後期水曜日7校時 (14:40~16:10)

	月 日 (曜)	講師名	プロフィール等
1	10月19日 (水) 14:40~ 16:10	草 苺 早 苗 山形市環境部部長	山形市役所1988年採用。まると推進課長、地籍調査室長、山形市男女共同参画センター所長を経て2022年度より現職。自然環境及び生活環境の保全並びに美化緑化運動の推進を進める。家族は義母と専業主夫の夫、高校生の息子。
2	10月26日 (水) 14:40~ 16:10	五領田 小百合 学術研究院 助教 (農学)	専門は行動学。医食農融合型の学際研究をしている。国内外の大学院、官公庁系の研究所、民間企業を経て、2021年に山形大学に着任。食に関する課題を楽しく解決する方法を模索してみたいと思っている。友人らとともに農業にもチャレンジ中。
3	11月2日 (水) 14:40~ 16:10	小 倉 泰 憲 学術研究院 教授 (理学部)	学生や産業現場で働く人を対象とし、キャリア教育とキャリアアカウンティングを実践。大学で音響工学を学び、企業でエンジニアとして勤務。その後、社会人大学院で心理学を学び、山形大学教授に転職。
4	11月16日 (水) 14:40~ 16:10	藤 田 愛 学術研究院 准教授 (医学部看護学科)	専門は母性・助産学。女性、特に妊産婦の栄養や活動に関する研究をしている。病院助産師、開業助産師、大学教員の傍ら東北大学大学院医学系研究科博士課程で学び、2011年より現職。夫、子ども2人。家事育児は良い加減がモットー。
5	11月30日 (水) 14:40~ 16:10	摂 津 隆 信 学術研究院 准教授 (人文社会科学部)	専門はドイツ文学。ドイツの喜劇役者カール・ファレンティンの研究をしている。早稲田大学大学院、早稲田大学・駒沢大学・大東文化大学非常勤講師を経て2014年に山形大学に赴任。家族は妻一人息子(中2)一人。料理と掃除以外の家事を担当。趣味はネット麻雀と週に二回のサウナ通い。
6	12月7日 (水) 14:40~ 16:10	宮 瑾 学術研究院 准教授 (有機材料システム 研究科)	専門は高分子科学。有機材料の分野でゲルの研究をしている。大学院を修了後、博士研究員、民間企業を経て、2012年に山形大学に着任し、2015年に研究室を立ち上げた。夫と一緒に世界各地をゆっくりと観光してみたいと思っている。
7	12月14日 (水) 14:40~ 16:10	佐 藤 琴 学士課程基盤 教育機構教育企画部 附属博物館	専門は日本美術史、博物館学。東北大学大学院博士課程前期修了後、宮城県に入庁。東北歴史博物館学芸員を経て2011年に山形大学着任。美術作品と博物館を見るために出歩くことが多く全都道府県に行ったことがある(徳島県は通過だけ)。仙台市で一人暮らし。趣味着物。

	月 日 (曜)	講師名	プロフィール等
8	12月21日 (水) 14:40~ 16:10	池 田 彩 乃 学術研究院・准教授 (地域教育文化学部)	専門は肢体不自由児の教育。筑波大学大学院修了、特別支援学校教員を経て、2020年に山形大学に赴任。家族は、夫と子供3人(小3, 小1, 1歳)。私の転職を機に夫は公務員を辞め、飯田キャンパスで事務員に転職。現在は夫が長期の育休取得中。

### 3 受講した学生の感想

文系や理系分野を問わず、経験豊かな先生方の話を聞くことができ、男女共同参画社会の一員として、将来の職業のことだけでなく、視野を広げたキャリア・ビジョンを持つことができたという内容の感想が多かった。また、新聞レポートの作成によって、社会での事象に対する関心も高まり、レポート発表やワークショップによって他の意見や考えを聞く力、発表する力などのコミュニケーション力がついたとの感想も多かった。

### 4 授業パンフレットの発行

平成29年度より、『キャリア形成とワークライフバランス(山形から考える)』探究ノート」を年度末に発行している。各講義の内容と学生の授業記録をまとめた内容で、学生、教職員、一般の方に配布し、男女共同参画社会やジェンダーについて考える契機になっている。

## 4 女性研究者の研究力向上

### (1) ソロプチミスト日本財団女性研究者賞受賞

公益財団法人ソロプチミスト日本財団が実施している令和4年度の支援事業において、農学部附属やまがたフィールド科学センターの佐々木由佳准教授が「女性研究者賞」を受賞しました。

山形県からの受賞者は今回が初であり、また同賞の受賞者は、全国で1名となります。

ソロプチミスト日本財団女性研究者賞は、2013年、同財団の創立30周年を記念し、女性研究者へ躍進の機会を与えることを目的として創設されました。同賞は、教育、科学技術、医療技術、環境、IT技術、介護福祉、社会福祉、伝統技術、伝統文化、文学、経済学、健康、平和などさまざまな分野で将来性のある研究をしている優秀な女性に対し、研究費500万円が支援されます。

今回申請があった研究は医療系分野が多い中、佐々木先生が申請された研究は、SDGsに特化した研究であることが高く評価されました。



広島で行われた贈呈式にて  
表彰を受ける佐々木准教授



中央が佐々木准教授

## 5 アウトリーチ活動

機 関 等	連 携 内 容
大学コンソーシアム やまがた	①大学コンソーシアムやまがた（ダイバーシティ推進室副室長） ・幹事会 日時：令和4年6月21日（火）（オンライン） ・総 会 日時：令和4年6月30日（木）（オンライン） ②大学コンソーシアムやまがたダイバーシティ推進ネットワーク会議 日時：令和4年10月28日（金）（議長：副室長）
山形県男女共同参画 センター チェリア	①チェリアフェスティバル山形2022実行委員会（副室長） 第1回 日時：令和4年4月24日（日） 第2回 日時：令和4年5月28日（土） 第3回 日時：令和4年8月20日（土） 第4回 日時：令和4年10月22日（土） ②チェリアフェスティバル2022 サイエンス・カフェ 講師：野村真未氏（理学部助教）、河合寿子氏（理学部准教授）、 宮城敦子（農学部准教授）、山大JOIN 日時：令和4年10月1日（土） ③チェリアフェスティバル山形2022 講演会 講演：福田和子氏（#なんでないのプロジェクト主宰） 日時：令和4年10月2日（日）
山形市企画調整部 男女共同参画センター	①男女共同参画に関する作品募集 基盤共通教育科目受講学生 ②男女共同参画に関する作品入賞 表彰式 日時：令和4年11月12日（土） ③山形市男女共同参画センター 女性人材育成事業（助言者：副室長） 日時：令和4年12月6日（火）
天童市	①天童市立第三中学校 サイエンス・カフェ（山大STEAM連携） 講師：野村真未氏（理学部助教）、山大JOIN 日時：令和4年5月18日（水）
山形県産業労働部 雇用・産業人材育成課・ 働く女性サポート室	①山形県若年女性県内就職・定着協議会（委員：副室長） 日時：令和4年8月29日（月）（オンライン）
山形県しあわせ子育て 応援部 女性・若者活躍推進課	①やまがた女性活躍応援連携協議会（委員：副室長） 日時：令和5年3月2日（木）（オンライン）
全国ダイバーシティ ネットワーク組織	①全国ネットワーク組織・幹事会（ダイバーシティ推進室長、副室長） 日時：令4年7月21日（木）（オンライン） ②全国ネットワーク組織・幹事会（推進室長、副室長） 日時：令和4年11月18日（金）（オンライン） ③全国ダイバーシティシンポジウム（推進室長） 日時：令和4年12月9日（金）（オンライン）

機 関 等	連 携 内 容
全国ダイバーシティ ネットワーク組織 東北ブロック	①東北ブロック会議幹事会（室長、副室長） 日時：令和4年11月25日（金）（オンライン）
裾野拡大 女子中高生理系進路選 択支援	①山形県立南陽高等学校 マイプロジェクト（講師：副室長） 日時：令和4年6月10日（金） ②米沢興譲館高等学校出前講座 講師：高橋茶子氏（工学部助教） 矢野 裕子氏（工学部助教）、山大JOIN 日時：令和4年7月25日（月）
その他	①山形県高等学校長会 ダイバーシティ推進室、山大地域共創STEAM教育推進センターの説明（副室長） 日時：令和4年4月22日（金） ②山形県教育センター新規採用教頭研修会（講師：副室長） 日時：令和4年5月13日（金） ③山形県教育センター5年次経験者研修（講師：副室長） 日時：令和4年7月1日（金） ④附属学校園研修会（講師：副室長） 日時：令和4年10月3日（月） ⑤東北活性県福島フォーラム（副室長） 日時：令和4年7月29日（金） セミナー2回 8月31日（水）、9月14日（水）



## 6 広報活動

### ホームページ

ダイバーシティ推進室の事業の一層の理解と制度の利用促進のため、ダイバーシティ推進室が主催するセミナー・シンポジウム等の案内や山形大学内外で行っているイベント（カラフルカフェやチェリアフェスティバル等）の告知を随時行った。

より身近で活用しやすいホームページを目指し、令和5年4月1日にリニューアル予定。

### ニュースレター

今年度よりニュースレターを一新。これまでは活動報告がメインだったが、すべての人が各自の個性を生かし、能力を発揮できる環境を創るための情報発信型に変更。ダイバーシティやアンコンシャスバイアスの概要、LGBT、男性の育児休暇等、理解を深められるような情報を掲載した。

Office for the Promotion of Diversity, Yamagata University

# NEWS LETTER

No. 31  
2022.09  
SUMMER

山形大学男女共同参画推進室は、今年度よりダイバーシティ推進室となりました。「ダイバーシティ」については、本号の特設ページでも取り上げますので、ぜひご覧下さい。推進室がもっと身近な存在になるよう、今年度からのニュースレターも一新しました。形式的になりやすい事業報告はコンパクトにまとめ、気軽に読める、ダイバーシティを自分事として意識して頂けるような内容、紙面づくりを進めています。どうぞご期待ください。

男女共同参画やダイバーシティの推進にあたり、当推進室では、学生や教職員の多様なニーズを丁寧に伺い上げ、これまで整備してきた各種制度をさらに改善し、皆さんが自ららしく活躍できる大学を目指します。その人のライフスタイルやライフステージによって、異なる課題やニーズは異なりますが、「解決できれば動きを止める」あるいは「動きを止める」することなく、次の世代や他の方が同様のことで悩んだり苦労したりすることを減らしていきたいと考えています。また、多様な価値観の人々が共生するためには、コミュニケーションが大切です。コロナ禍で普及したオンライン会議は効率的で便利なシステムですが、画面越しではなかなか難しい機能的なコミュニケーションから生まれるアイデアや創造性を大切にする必要があります。本号第1回の推進室に気軽にお立ち寄り頂き、ぜひ皆さんのニーズやアイデアをお聞かせ下さい。

TOPICS 01  
室長の大森です  
はじめまして！

TOPICS 02  
「ダイバーシティ」って？

TOPICS 03  
「アンコンシャス・バイアス」

日本語で「無意識の思い込み」「無意識の偏見」「無意識のバイアス」等と表現されることもあるアンコンシャス・バイアスは、日常や職場にあふれています。例えば、こんなことを聞いたたり、尋ねたことはありませんか？

- ①「女のくせに」「男のくせに」などと思ってしまうことがある
- ②雇用は、若手職員、もしくは女性の仕事だ
- ③定時で帰宅する職員は、仕事を頑張っていない
- ④男性が育児休暇を取得するのは、仕事に対する責任感が足りないからだ
- ⑤女性が入る会議は長くなる
- ⑥男の子が泣くのは恥ずかしいことだ
- ⑦「親が専業主婦中」だと聞くと、父親を思い浮かべる
- ⑧「消防士」と聞くと「筋肉質で運動神経が良さそうな男性」「若手職」と聞くと「白髪を蓄えた瘦せそうな女性」を思い浮かべる

ここに記載した例は、ほんの一例に過ぎません。普段、あなたが当たり前に思っていることと考えていること、もしかするとそれは「アンコンシャス・バイアス」かもしれません。

多様性 (Diversity) という言葉はさまざまに使われていますが、日本では、Diversity & Inclusion (多様性) を省略して使われることが多いです。人種・性別・年齢・身体障害など外見だけでなく、価値観・宗教・生き方・考え方や、性格・職業などの内面的な違いにかかわらず、すべての人が各自の個性を生かし能力をフルに発揮できるような組織環境をつくることを意味します (公益法人日本女性学財団 (https://www.jawe2011.jp/kaisetsu/index.html) より引用)。

本号では、学生及び教職員が性別、性的指向、年齢層にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) を実現することを目指しています。

### 新聞報道

ダイバーシティシンポジウム「山形からはばたく女性科学者～パイオニアから現代、そして未来へ～」開催について、次の記事が紹介された。

・令和4年12月14日 (水)

「女性科学者テーマにシンポ」 山形新聞

女性研究者の裾野拡大を目的としたシンポジウム開催の旨、紹介された。

・令和4年12月27日 (火)

「女性科学者活躍 どんな意識必要 山形大でシンポ」 山形新聞

基調講演やパネルディスカッションの様子が紹介された。

## ラジオ放送

ダイバーシティシンポジウム「山形からはばたく女性科学者～パイオニアから現代、そして未来へ～」開催についてFM山形にて広報を実施した。

- ・令和4年12月22日（木） WAVE4 yamagata



## 三川町広報誌「広報みかわ」掲載

ダイバーシティシンポジウム「山形からはばたく女性科学者～パイオニアから現代、そして未来へ～」開催について、令和4年12月1日号に町後援イベントとして掲載された。

## 全国ダイバーシティネットワーク組織ウェブサイト

平成30年11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置され、令和元年にウェブサイトOPENeDが開設された。本学の取組が参考事例として掲載されており、令和元年度より、山形大学の女性研究者採用情報をリンクしている。

令和4年度は、東北ブロック活動の中で南東北会議研修会について掲載された。また、女性研究者・学生の声の中では、「【東北ブロック】ドイツ生活を経て得た気づき」として、学術研究院 理学部助教 石井 彩子先生のコラムが掲載された。

## 裾野拡大のための広報

県内の高校に対し、各種イベント開催の告知・広報を行った。

- ・ダイバーシティシンポジウム「山形からはばたく女性科学者～パイオニアから現代、そして未来へ～」
- ・データサイエンスカフェ